

日ごとに暖かさが増し、春の訪れに校門横の桜がほころび始めています。

六十四回生の皆様、ご卒業おめでとうございます。本日、在校生は私一人の出席となりましたが、在校生一同を代表して、心よりお慶び申し上げます。

皆様は、この卒業式を迎えるまでの6年間をどのように過ごしてこられたでしょうか？登下校で通る校門前の赤い道、先生方と話を重ねた職員室前、プラザ越しに向かい合わせの学年と手を振り合う廊下の窓など、駒場東邦で過ごした日常の風景一つ一つが思い浮ぶことと思います。その中で私たちは、部活動や委員会活動などを通して、先輩方から非常に多くのことを学ばせていただきました。中学一年生で部活動に入った時や中学三年生で行政委員会に入った時、右も左もわからない私に丁寧に何をすれば良いのか教えてくださったのはいつも六十四回生の先輩方でした。また、言葉で説明をするだけでなく、率先して行動で示し、私たち後輩を導く姿にもとても感銘を受け、私自身が後輩を指導する立場になった際の目指すべき目標となりました。

そして、先輩方の優れた器量は行事運営においても遺憾無く発揮されていたように思います。2021年度の文化祭は新型コロナウイルスの新規感染者が増減を繰り返す、先の見通せない状況の中、幹部の方々をはじめとするリーダーシップと高い個人能力によって、感染対策とコロナ禍以前の活気に近づけることの両立が成し遂げられました。想定される中でも非常に望ましい形で引き継がれたことで、今年度の文化祭では、九月開催や来場者規制の緩和を実現することができました。体育祭に関しても、競技や練習での密集防止や校庭が人工芝になったことの影響で、競技やルールが定まっていなかった中、先輩方が新競技の開発やルールの改正を行われたことで、三年振りに全学年同日での開催が可能となりました。現在、各色の意志は引き継がれ、更なる新競技の開発や中全・高全競技の復活といった活動の礎となっています。こうした行事運営のいずれをとっても、その過程には多大なる困難があったことと思います。それらを、時間をかけ、工夫を凝らして打破し、私たち後輩にかけがえのない経験と駒場東邦の伝統を授けてくださったことへの感謝の念は尽きることがありません。

先輩方は今日を機に新たな世界へ踏み出され、この学校で培われた能力が今後多方面で展開されることと思います。そのことを非常に喜ばしく思うと同時に、共に過ごす日々が終わってしまうことを痛感し、別れを惜しむ気持ちも溢れてきます。ですが、先輩方がこの学校に再び立ち寄った時に、より素晴らしい学校になっていると思って頂けるよう、在校生一同一層まい進して参ります。

最後になりますが、卒業生の皆様のますますのご活躍とご健康をお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和五年三月七日

在校生代表

庭野元道